



日本イーストウエストセンター同友会 The Japan EWC Association

ニューズレター 第10号

1992年度総会開催さる

1992年度の日本イーストウエストセンター同友会総会は、はじめて東京を離れ、京都・新都ホテルに於いて1992年9月19日午後4時から開催されました。出席者は関西支部会員を中心に、東京、名古屋などから33名を数え、ここ数年の総会の中ではもっとも盛会となりました。

冒頭、海外出張中の山下勇本会顧問から寄せられた祝詞（別記）が披露され、続いて事務局から委任状を含めた出席者数が総会成立の定数を満たしていることが報告されました。以下、

各幹事からの報告は次の通りです。

1992年度活動報告 三和義彦会長

関西支部活動報告 中山行弘関西支部幹事

中部支部活動報告 塚田守中部支部会長代行

EWCA(ハワイ)活動報告 馬場房子副会長

名簿作成について 神保尚武幹事

ニューズレター発行状況 中村正枝幹事

続いて、1992年度上期の会計状況に関して事務局（浜野）から報告があり、収支が承認されました。なお、今回の総会は会則に定められて



いる年度末開催日よりも繰り上げて開催されたため、年度全体の決算は12月の幹事会において議決したい旨の提案が会長から行われ、直ちに承認されました(12月4日の幹事会に於いて承認済み)。

総会終了後は関西支部長である寛壽雄神戸大学教授から「アジア・太平洋地域の英語」と題する講演が行われました。英語といえば、英米に如何に近づけるかという議論が圧倒的な日本の現状に対して、アジア・太平洋地域ではむしろその国の実状に即した英語が話されていること、国際化の進展にともなって、英語をコミュニケーションの道具として用いる機会はますます

増えており、日本人もこのような英語に見習うべき点があるのではないかということが、さまざまな資料により提示され大変興味深いお話でした。

講演終了後歓談に移りましたが、京都での総会ということで、中にはハワイ以来初めて同期生が顔を揃えるグループもあり、予定を延長して8時過ぎ散会しました。

なお、今回の総会開催にあたりましては、関西支部の寛会長、中山幹事ご夫妻、ならびに芦田友秀氏(ホテル・ギンモンド)に大変ご尽力頂きましたことを感謝申し上げたいと思います。
(文責 浜野 潔)

大成功だった京都での年次総会

会長 三 和 義 彦

「果たして、何人ぐらいの方々が集まるのかな」。昨年9月19日、初めて東京を離れて開催された日本イーストウェストセンター同友会の年次総会に出席するため、10数年振りに京都を訪れた私の胸中には、ちょっぴり不安な思いもありました。しかし、JR 京都駅前の新都ホテルの会場に、定刻の午後4時少し前に到着したとき、私の不安は取り越し苦労に過ぎないことがわかりました。

同ホテルの地階、八坂の間に準備された会場では、私より一足早く東京から到着していた馬場房子副会長、ニューズレターのエディター、中村正枝さん、浜野潔事務局長ら、事務局担当の皆さんが、関西の方々との旧交を温めていました。この会議開催の打ち合わせのために、わざわざ東京での総会へご出席をお願いしたこともある関西支部の中山行弘渉外担当幹事(摂南大学助教授)は、恵津子夫人(関西外国語大学助教授)とご一緒に、参加者のレジストレーションや会議進行の準備と打ち合わせで大忙し。

さっそく、電話で何回かお話しした関西支部の寛壽雄会長(神戸大学教授)に紹介して頂きました。

会議の参加者は予想を上回る33人という盛況振り、総会の議事は、予定通り進められました。当初、この京都総会には是非出席したいとされていた当会の山下勇顧問(東日本旅行鉄道株式会社会長)は、生憎突然の海外出張となったため、この総会のために急遽用意されたご挨拶を頂き、会議の冒頭、私から皆様にご披露しました。

一方、かねてから、当会の顧問ご就任をお願いしてご内諾を頂いていた富士ゼロックス会社の小林陽太郎会長のご好意については、その経過を皆様にご報告し、満場一致の拍手で執行部の手続きが承認されました。

東京からは、事務局の担当者全員が出席し、それぞれの部門での仕事振りを手短かに説明。その一方で、関西支部の活動については、中山同支部幹事、中部支部については、わざわざ名

古屋からご出席頂いた塚田守中部同友会会長代行(椋山女学園大学助教授)がそれぞれの地域での近況について報告されました。

総会議事終了後のスペシャルイベントは、寛先生のご講演。「アジア・太平洋地域の英語」と題したお話で、「東南アジアの英語には英米に近づけようとする日本の英語と違い、それぞれの国のアイデンティティ(主体性)を強調するため独特の癖があるものの、日本人にはむしろ分かり易いという分析もある」とのこと。こうした現状認識にたった寛先生の、世界的な補助言語としての英語の使われ方についての分析には、(A)ビジネスアドミニストレーション(B)学術上の研究、の両分野でも、日頃、英語を駆使している我々がうっかり見逃していたそのいろいろな機能や特性があることは“大いなる発見”でした。

ご講演の後の懇談会では、中山恵津子助教授

の上手な司会で、参加者一同が互いに自己紹介をして懇親を深めるという一幕もあり、今度の総会の成功に気をよくして、また、是非関西でやろうということでは、東西の参加者全員の意見が期せずして一致しました。

午後8時過ぎに散会となった後も、参加者の皆様は“欲なお果てず”といったムードで、2次会場となったホテル・ギンモンドのラウンジへ集合。午後10時過ぎまでの楽しいひとときを過ごしました。

寛会長、中山幹事ご夫妻、そして、ホテル・ギンモンドの芦田友秀総支配人、出席者の皆様、全国の会員の皆様、皆様のご支援とご尽力で、初めての京都総会が大成功に終わったことを心からお礼申し上げ、会長からのご挨拶とさせていただきます。

1992年度 日本イーストウェストセンター 同友会総会へ寄せて

顧問 山 下 勇

日本イーストウェストセンター同友会の総会が、この度はじめて関西で開催される由、心からお慶び申し上げます。せっかくご招待いただきましたが、折り悪しく国外出張とかさなり、今年度は欠席させていただきます。

全国的な同友会組織が整えられて、今年で11年目とうかがっておりますが、名簿、ニューズレターの発行、講演開催など会の活動もますます活発になってきております。また、この度

小林陽太郎富士ゼロックス会長が、本会顧問をお引き受けいただいたことをお聞きし、誠に喜ばしい限りです。

国際関係がいっそう重要になりつつある今日、ハワイを中心に環太平洋に広いネットワークを持つ同友会会員の役割はきわめて大きなものであると存じます。今度、皆様のますますのご健闘を祈りつつ、祝詞にかえたいと思います。

日本 EWC 同友会顧問に小林陽太郎氏



今回、富士ゼロックスの小林陽太郎会長が日本イーストウェストセンター同友会に顧問として加わって下さいました。1月20日に同友会の三和会長と川畑幹事が富士ゼロックス社を訪ね、小林会長に顧問就任をお願いしたところ、御快諾を頂くことができました。心から感謝申し上げます。小林会長はたびたびマスコミにも登場されていますので御存知の方も多いかと思います。イーストウェストセンターで講演されたこともあり、また、fund raising の活動を通じ、イーストウェストセンターにも御縁の深い方でもあります。小林会長は1933年にロンドンでお生まれになり、1956年に慶應義塾大学経済学部を卒業され、1958年にペンシルベニア大学ウォートンスクールを修了されました。同年富士写真フィルムに

入社、1963年に富士ゼロックスに転じ、取締役販売部長、常務取締役営業部長、取締役副社長を経て1978年に取締役社長に就任、1992年に代表取締役会長に就任され現在に至っております。1987年5月にはゼロックス・コーポレーションの取締役に就任されています。また、臨時行政改革推進審議会委員、経済審議会委員、経団連 EFTA 委員会委員長、太平洋経済委員会副委員長、日米商工会議所協力委員会委員長、日米欧委員会委員、慶應義塾大学評議員、国際大学副理事長等を兼任されています。趣味はゴルフ(H7)と読書だということです。(文責 川畑 泰)

Regional Conference に出席して

副会長、EWCA Executive Board Member 馬場 房子

1992年10月12日から14日に、New Zealand の Auckland で、“Ecotourism Business in the Pacific”というテーマで、Regional Conference が開催されました。私は、10月9日から11日にかけて、同じ場所で開催されました EWCA の「Executive Board Meeting」に出席した後、引き続き出席しました。

Ecotourism Business というのは、最近話題になっている「エコロジー (Ecology)」と「Tourism」を合成した言葉で、その目的とするところはいろいろあるようですが、その一つは、自然の中を歩くということも含まれているようです。すでに私も、EWCA の Executive Board Meeting の Schedule の中で、Auckland

Regional Council のご案内により、自然の中を歩きました。このように長時間歩いたことがありませんでしたが、大変気持ちの良いものでした。こういう観光のやり方は、もっと発展すると良いと考えました。そういう意味で、今回の会議のテーマは、時宜にかなったものと評価しています。

ところで、Regional (地域) Conference (会議) でしたが、国際会議なみにいろいろな国からの参加者があり盛況でした。日本からも10人以上の参加者がいました。いろいろな国から来た人々と一緒に自然の中を歩いたり話ができ、イーストウェストセンターで学んだことの幸せをつくづく感じた次第です。

会計報告

日本イーストウェストセンター同友会会計報告--1992年度
(1991年12月1日~1992年11月30日)

項目	支出	収入	内 訳
収入の部			
繰越金		801,478	
銀行口座			282,645
郵便振替口座			354,334
郵便振替口座(2)			69,700
手持ち現金			94,799
91年度総会収入(6,000×14)		84,000	
92年度総会収入(7,000×33)		231,000	
会費振込(本部:5,000×202名) (支部:3,000×22名)		1,010,000	
銀行利息		6,051	
小計		2,198,529	
収出の部			
91年度総会費用(註1)	165,060		
92年度総会費用(註2)	284,356		
ニューズレター第8号発行費用	191,117		
ニューズレター第9号発行費用	258,814		
総会出欠葉書代	77,147		
支部補助金	72,000		
事務経費(郵便代など)	30,736		
事務局経費(註2)	120,000		
小計	1,199,230		
銀行口座	475,212		
中期国債ファンド	304,373		
郵便振替口座	78,334		
郵便振替口座(2)	69,700		
手持ち現金	71,680		
合計	2,198,529	2,198,529	
次年度への繰越金		999,299	

1992年12月4日
上記の通り相違ありません。

会 計 洪野 潔 (印)
会計監査 鑑江 龍一 (印)

(註1) 例年、総会費用は次年度会計で処理されておりますが、92年度は総会開催が9月になったため、当年度会計で処理されました。
(註2) 事務局経費とは、事務局で使用した電話代、交通費、事務機器(コピー、ファックスなど)使用料などを月額1万円として計算したものです(91年12月21日幹事会に於いて承認済)。

沖縄 Chapter 主催で Regional Meeting 開催決定

日本イーストウェストセンター同友会長
三 和 義 彦 殿

会員の皆様へ

地域開発に関するアジア太平洋地域会議沖縄大会
組織委員会委員長代行
崎 原 盛 造
(琉球大学医学部教授)

会長 三 和 義 彦

当会の関係団体であるイーストウェストセンター沖縄同窓会(会長:石島英琉球大学教授)は、ハワイのイーストウェストセンター(EWC)、イーストウェストセンター国際同窓会(EWCA)と協力して、本年11月5~7日の3日間、那覇市で「地域開発に関するアジア太平洋地域会議沖縄大会一略称:EWCA 地域会議沖縄大会」を開催されます。

に就任され、「地域開発に関する沖縄の経験と成果」を、3日間にわたるセミナーの中心課題として、プログラムをまとめておられます。日本で初めて開かれるこの大会の前評判は高く、海外からは、ハワイを始め太平洋諸国の友人達約150人以上の参加者が見込まれていると伺っております。

この大会の組織委員会委員長代行を務めておられる琉球大学医学部の崎原盛造教授からは、このほど当会にもこの大会を成功させるための協力のご依頼がありました。そこで、ニューズレターを通じてこれを皆様にご紹介する次第です。

もちろん、地元の沖縄県としても、EWCAの会員である太田昌秀知事を先頭に、那覇市の親泊康晴市長ら行政の責任者の皆様、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄キリスト教短大など学界の先生方、さらに、沖縄県経営者協会、沖縄県商工会議所連合会、沖縄県経済同友会、那覇青年会議所、沖縄県銀行協会等の各経済団体を中心とする産業界の皆様が総力を結集して大会の成功を目指し、協力体制を組まれています。

当会といたしましても、去る1月22日に開いた幹事会でこの大会への協力についていろいろと検討しました。その結果、当会は主要後援団体として、沖縄の皆様にご協力申し上げるといふ基本方針を、まず、確認しました。さらに具体的な協力策としては、資金協力をするほか、会員の皆様にもこの大会への参加と寄付金のご送付を呼びかけるなど、積極的な支援対策を展開することになりました。

皆様には、さらにプログラムの詳細、組織委員会指定の宿泊施設、参加者の申し込み手続きなどの細目につきまして、沖縄から連絡があり次第お知らせする予定です。皆様にもご協力をお願いした寄付金の送付先としては、下記の琉球銀行と沖縄銀行の口座が指定口座となっています。応分のご協力を心からお願いする次第です。

組織委員会の方では、照屋文雄氏が事務局長

かねてから検討をすすめて参りました EWCA Okinawa Regional Conference につきましてはいろいろご高配をいただき誠にありがとうございます。「地域開発に関するアジア太平洋地域会議沖縄大会 Regional Development in the 21st Century : Think Globally, Act Locally with the Okinawan Spirit - "Ichaliba Chodee"」として本年11月5-7日に那覇市において開催する運びとなりました。

21世紀におけるアジア太平洋地域の発展の鍵をさぐるため、保健医療福祉、産業経済及び政治、人材育成および教育、環境の保全と活用、英語教育、そして How To Promote Better Relations Between US and East Asian Countries の各分野において討議し、つぎの目標を達成しようと計画致しました。

1. 21世紀におけるアジア太平洋地域の現状と発展の課題を明らかにする。
2. 地域の発展開発に必要な人材の育成と確保の方法を検討する。
3. アジア太平洋地域における人的交流と相互理解の促進を図る。

開催時期は、台風シーズンもすぎ、美しい沖縄の青い海と人情こまやかな Okinawan Hospitality で楽しい旅行をご満喫いただけるものと存じます。また、首里城の復元により固有の文化を持ち国際交流はなやかなりしかつての琉球王国の雰囲気にもふれることもできると思います。ハワイで学び研鑽を積んだ同窓の友人、知人が沖縄の地で交流を深めることは国際的ならびに国内的にも人的ネットワーク形成のため非常に有益であると確信致します。

つきましてはこの大会を成功させ、初期の目的を達成するため同友会の役員ならびに会員の皆様多数のご参加、ご発表、募金へのご協力を賜りますようお願いのほどよろしくお願い申し上げます。

趣 旨

沖縄県は沖縄本島を中心に宮古群島、八重山群島からなり、日本の最西端に位置する与那国は隣の台湾からわずか125kmの距離にあります。人々が住んでいる島だけでも大小40あり、東西1000km、南北400kmの広い海域に散在しております。北緯24度と27度の間に位置する沖縄は緯度から言えばアメリカのフロリダ州マイアミとほぼ同じところにあり、地図の上で見ると世界のリゾート地帯にあります。

沖縄における第2次世界大戦中の戦闘は、沖縄全域に壊滅的な破壊をあたえ、全人口の20%に及ぶ死傷者を出しました。1945年以降米国の軍隊が27年間沖縄を支配し、『太平洋のキーストーン』として巨大な軍事基地が建設されております。そして沖縄が日本に返還されたのは、日本が経済大国になった1972年のことであります。

さて、1992年は沖縄が日本復帰して20周年の記念すべき年でありました。しかし、戦争の傷跡は、沖縄の人々の心の中から消えることはありません。そこからすべての人類が、安心して暮らせる平和な世界に対する沖縄の人々の強い願望が出ているのです。

戦後から今日に至るまで、沖縄の人々は多くの困難に遭遇しました。マラリアや寄生虫病などの

協力金振込先:

琉球銀行本店	普通預金	口座番号	5 5 1 5 1 5
	名義	EWC 沖縄同窓会長	石島 英
沖縄銀行本店	普通預金	口座番号	1 7 4 6 3 2 0
	名義	EWC 沖縄同窓会長	石島 英

風土病に加え、多くの伝染病との闘い、医療従事者や医療施設の不足、加えて毎年襲来する台風による自然災害など。しかし、このようなきびしい環境にあって、幾多の困難を克服し、今日では世界一平均寿命の長い日本の中で、沖縄の人々はもっとも平均寿命が長く、百歳以上の長寿者も日本一多い、文字どおり世界一の長寿地域に発展いたしました。

この沖縄における地域開発の貴重な経験を保健福祉、産業経済、教育と人材育成、そして環境保護と資源活用の各分野を中心に、アジア太平洋地域諸国の人々と再検証することは、きわめて有意義なことであると思います。そして21世紀のアジア太平洋地域における適切な地域開発のために、有益な示唆がえられるものと確信致します。

ここで、われわれは地域開発に関するアジア太平洋地域会議を沖縄で開催し、地域開発の促進と世界平和の実現に向けて討議し、行動を起こす機会にしたいと願っております。世界環境開発委員会の Brundtland 女史はつぎのように述べております。「人類は、より繁栄し、より公正で、より安全な未来社会を築くであろう」、地球を守るために一人ひとりがなすべきことは何か、それは「世界規模で考え、それぞれの地域で行動を起こす」ことであると。

沖縄大会のテーマは、沖縄の人びとの心情を表現した『イチャリバ チョーデー』であります。その意味するところは、「一度出会えば、きょうだいの如き永遠の友である。もはや隔てる何ものもない」、ということであります。それはまた、人類の『共生』を大切にする沖縄の人々の価値観、行動様式でもあります。

現在、われわれに求められていることは、すべての人類が共に生きる平和な世界を、そして地域を築くことであると確信致します。

目 標

1. 21世紀におけるアジア・太平洋地域の現状と発展の課題をさぐる
2. 地域の発展に必要な人材の育成と確保の方法を検討する
3. アジア太平洋地域における人的交流と相互理解の促進を図る

開催要項

主 題 「イチャリバチョーデーの精神をもって地球規模で考え、地域で行動する」

期 日 1993年11月5日(金)～7日(日)

会 場 パシフィックホテル沖縄(予定)

主 催 イーストウェストセンター沖縄同窓会

共 催 イーストウェストセンター (East West Center, Hawaii)

イーストウェストセンター国際同窓会 (East West Center Association)

琉球新報社

後 援 日本イーストウェストセンター同友会、他

EWCA 地域会議沖縄大会事務局

903-01 沖縄県中頭郡西原町上原207

琉球大学医学部保健学科保健社会学教室内

電話 098-895-3331 内線 2654、2656 (崎原研究室)

FAX 098-895-2841

プログラム

第1日 11月5日(金)

08:30 登 録

10:00 開会式 司会 渡久地政順(沖縄キリスト教短大教授)

開会の辞 沖縄大会会長 山里 清

ご挨拶 沖縄県知事 大田 昌秀

那覇市長 親泊 康晴

EWCA 理事

EWCA 理事長 Chalintorn Burian

11:00 基調講演 嘉数 啓 国際大学教授

12:00 昼食 講演 沖縄の歴史

13:30 全体セッション 【地域開発発展に関する沖縄の経験と成果】

13:40 保健医療・福祉分野, 産業経済・政治分野

15:00 Coffee Break

15:30 人材育成・教育分野, 環境: 保全と活用

16:50 座長まとめ(17:00終了)

17:00 事務連絡

18:00 ディナー

第2日 11月6日(土)

9:00-11:50

アジア太平洋地域における地域開発発展の現状と将来

第1分科会 保健医療・福祉

第2分科会 人材育成・教育

第3分科会 産業経済・政治

第4分科会 海洋資源・環境保全と活用

第5分科会

How To Promote Better Relations Between US and East

Asian Countries

英語教育ワークショップ

12:00

昼食セッション

戦後沖縄の発展とハワイの関係(仮) 佐喜真 彰氏(予定)

13:30-16:00

分科会継続

16:30

閉会式

18:30

かりゆしディナー/アトラクション(琉球舞踊、他)

第3日 11月7日(日)

9:00

フィールドスタディ(半日ツアー)

首里城、平和祈念公園など

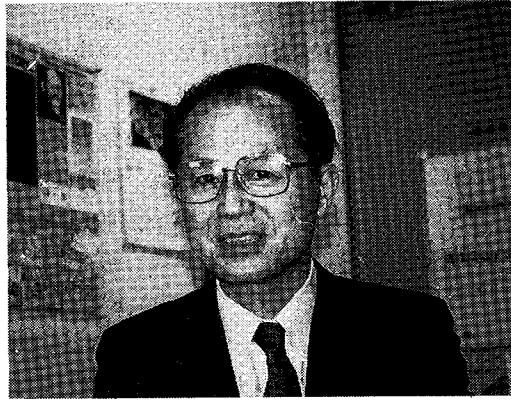
科学ジャーナリスト 世界会議開催に 会員の牧野氏の功績

1992年11月10日から13日まで、東京都港区の日本学術会議（The Science Council of Japan）ホールにおいて第1回科学ジャーナリスト世界会議（The First World Conference of Science Journalists）が開かれましたが、この会議の実行委員長としてイーストウェストセンター同窓の（1983年度・人口問題）牧野賢治さんが活躍されました。牧野さんは30年以上にわたり毎日新聞で科学記者としての仕事をされた後、現在、東京理科大学の理学部教授として科学倫理などの担当をなさっています。

この会議には31ヶ国から165人の科学ジャーナリストが参加し、熱帯雨林の保護、エイズ、臓器移植、遺伝子工学、自然保護に関する先進国と発展途上国との対立など、いろいろの問題が討論されました。記者がどのくらい正確に科学記事・解説を書いているか、また、読者がどのくらい理解しているかについての調査研究も報告されました。報道の客観性とか、報道とエイズ問題に見られるような人権問題との関わりも討議されました。

会議が開かれる前に行われたインタビューで、牧野さんは、地球の未来は人間が科学と技術を正しく管理できるかどうかにかかっていること、先進諸国は資源浪費型の快適追求を止め発展途上国の生活水準向上に助力すべきこと、これらを成し遂げるためには科学ジャーナリストも一般市民も科学と技術の方向性について考慮する必要があることを強調されていました。

会議を終えるに当たって、言論・報道の自由と、情報へのアクセスが重要であることを強調した宣言が出されました。科学と技術が両刃の剣になりうることも指摘され、科学ジャーナリ



ストは技術的発展がどのような社会的・環境的結果をもたらすかについて十分考慮すべきことも強調されました。

参加者の討論の中で、有能な科学記者を育てるための訓練の重要性が指摘されました。また発展途上国の参加者から、政府による情報の独占また検閲が問題にされましたが、フランスの参加者からは先進国も似たりよったりであるとの意見が出され、フランス政府は1986年4月のソ連のチェルノブイリ原子力発電所事故後のフランスにおける放射能汚染レベルを明らかにすることを拒んだという報告がなされました。

また会議では、今世紀最大の科学上の出来事は何かということについて投票が行われ、日本人93人を含む128人が投票しました。原子爆弾の開発と広島、長崎への原子爆弾投下と、アポロ11号の月面着陸が最大の出来事として選ばれました。次に選ばれたのが遺伝子の配列と構造に関する分析と遺伝子操作技術の開発、そしてコンピュータの開発・普及でした。人物としてはアインシュタインが最大の人物として選ばれました。（文責 ジャパンタイムズ報道部、日本EWC同友会幹事、川畑 泰。この文は同紙1992年11月7日の記事“Science Journalists to gather in Tokyo”、及び11月14日付の記事“Clear Science Reporting called Essential—Journalists take united stand”担当記者会田薫子、担当デスク川畑、に基づいて書きました。）

1992年度会費納入会員名簿

1993年1月末現在、年度別・7N7Aハット順、敬称略

- | | | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| (61年度)
新井龍二
橋本光郎
飯田淑事
石沢能子
川島慶雄
小林和夫
中司哲
大藤芳則
須藤淳
上山英一
吉国隆 | (64年度)
青井潔
富士裕
逸見謙三
池本明
稲葉厚
地阪隆三
上村和子
金子洋子
湊和夫
門田光雄
村上嘉一
中村正枝
中野圭二
田中一郎
山口修 | (67年度)
芦田友秀
藤田文子
飯田実
金城功
黒田秀男
西川敏之
小野昭一
角桂余子
鈴木伝次 | (71年度)
石原滋
加藤多恵子
川合宏之
松村幹男
菅原通
高仲顕
高沢義行
田代茂夫
椿弘次
土屋圭造
八木近直
矢島尚和
吉田恵美子 | (76年度)
木内義勝 | (84年度)
阿部喜三
石田雅近
水山高久
塚田守 |
| (62年度)
出村和子
橋本貞雄
本間恵子
神崎恭郎
木村正史
小玉大円
三原正一
太田幹雄
大山綱夫
城間理夫
田村恭子
富田光彦
渡辺時夫 | (65年度)
青木進吾
飯塚成彦
石川淑子
金谷茂
銘莉良一
野田寿
大城常彦
佐藤貢
清野幸子
高田宜美
高橋美和子
竹村憲一
滝来啓子
梅沢時子
白井鈴子
米山朝二 | (68年度)
石坂和夫
小武秀男
仲野英志
塩入激
高梨庸雄
田中擴
屋比久武
山内昌和
世嘉良直 | (72年度)
羽多野正美
細木高志
磯本泰三
小村幹夫
大内茂男
佐藤和夫
高島昭一
続木美美子 | (77年度)
林淳子
村川行弘
那須紀幸
酒井里子
末延岑生
渡辺晴子 | (85年度)
浜野潔
佐藤知一
田中勝邦
津谷典子
横山英世 |
| (63年度)
馬場房子
海老原真
Frank Gniffke
泉清人
金子のぶ
木村力雄
桐越昭
北弘志
久保田晴彦
丸田敬
宮内猛
村田勝弘
西村嘉太郎
野口福次
斎藤勝彦
珠玖佳久子
田代成義
寺村公男
徳永淳三
内田幸成
矢野安剛
吉田勝知 | (66年度)
新垣元助
具志堅政芳
宮城文三
迎町路美子
大来佐武郎
坂下昌朗
清水泰子
末広稲子
高江洲歳満
棚橋啓一
恒川京子
山本勇三
八十八川睦夫 | (69年度)
土井正生
後藤修三
堀口純子
神保尚武
金井道夫
松原美智子
松本宣光
宮川佳三
太田忠久
宇留野宗嗣
渡辺信一
山脇孝 | (73年度)
鑑江龍一
宮崎公江
大田昌秀
大貫昇
勝呂讓
外池滋生 | (78年度)
加藤一郎
森本正夫
沼田眞
太田幸夫
外池一子
上野明 | (87年度)
井上奈良彦
榊原桜 |
| | | (70年度)
星野靖雄
笠井逸子
国広哲弥
中田清一
大塚尚夫
鈴木良子 | (74年度)
後藤和彦
久米昭元
森戸由久
中野貞三
野口泰生
坂本悠貴雄
杉田稔 | (79年度)
中山行弘
高遠宏 | (88年度)
衛藤清吉
喜多登
中原裕幸 |
| | | | (75年度)
原田高好
長谷川浩一
伊藤達也
川畑泰
小松左京
大坪喜子
斎藤定吉
鈴木宣次 | (80年度)
三和義彦
中山恵津子
野村好弘 | (90年度)
田中厚彦 |
| | | | (81年度)
柿沢弘治
中臣久
横田昌幸 | (82年度)
古橋政子
原裕規
谷井信一
梅田純一
吉田興亜 | |
| | | | (83年度)
遠藤浩一
後藤昭八郎
旗野脩一
猪口孝
上川陽子
加藤剛
牧野賢治
永野芳宣
高桑栄松 | | |

1994 EWCA International Conference 開催予定

テーマ：“East-West Cooperation : A Key to
Enhancing the Quality of Life”

日時：1994年7月4～9日

場所：Radisson Plaza Hotel

18800 MacArther Boulevard, Irvine,
CA 92715, USA



編集後記

1993年度会費納入のお願い

今年度の会費のお振込をお願い申し上げます。
会費は¥5,000 です。関西・中部支部の会員から
の会費は¥3,000 を日本イーストウェストセン
ター同友会に、¥2,000 を各所属支部に払い
戻しておりますが、支部の会計幹事からは、
¥2,000 を直接支部宛振込んで頂くと、手続き
上の混乱がなく有難い、と連絡が来て居ります
ので御協力をお願いいたします。郵便局の振替
用紙を同封いたしましたのでご利用下さい。

住所等変更の ご通知について

住所、電話、勤務先等の追加・変更・訂正は
会費振替用紙の裏面をご利用頂くか又は、下記
事務局宛お知らせいただければ幸いです。

〒244 横浜市戸塚区川上町412-1-231

浜野 潔



不況とは言うものの皇太子殿下ご婚約内定の
おめでたいニュースで始まった平成5年。本年
最初のニューズレター（第10号）はページ数が
多くなりました。ニューズレターと共に1993年
版名簿もお届けいたします。2年に1度発行の
名簿は出来るだけ正確を記したいと努力して
おりますので、どうかお目通しのうえご自分の記
載はもとより友人・知人の消息や訂正をお知
らせ頂きたいと思っております。ニューズレター中の会
計報告をご覧頂けば分かりますように、ニュー
ズレターや名簿の発行・発送は会員の皆様から
の会費に頼っています。200名余りの会員のご協
力のおかげで1000人近い方々にお送りできて
いるのです。今回も郵便局の振替用紙を同封して
おりますのでどうぞご協力をお願い申し上げます。
(MN)

ニューズレター第10号

編集発行 日本イーストウェストセンター同友会
編集者 中村正枝
発行者 三和義彦
事務局 〒180 東京都武蔵野市境5-24-10
亜細亜大学馬場研究室内
電話0422-54-3111 内線2271

タナカ印刷